

令和6年12月10日

福生市議会議長 武藤 政義 様

建設環境委員会委員長 堀 雄一郎

令和6年度 福生市議会建設環境委員会視察報告書

1 視察日程

令和6年10月7日(月)～10月8日(火)

2 視察先及び目的

(1)静岡県藤枝市

AI オンデマンド交通「ふじえだmobi」について

(2)大阪府堺市

原池公園等管理運営事業について

3 視察参加者

委員長:堀 雄一郎
副委員長 :清水 義朋
委員 :幡垣 正生
委員 :三原 智子
委員 :森田 哲哉
委員 :川崎 善友
随 行 :大村 貴子 (議会事務局庶務係)

1 市の概要(令和6年6月現在)

- (1)面積 194.06km²
- (2)人口 140,281人
- (3)世帯数 61,868世帯
- (4)概要 藤枝市は静岡県中部に位置し、南北に長い市で、北部は赤石山脈の南端に接し、豊かな自然に恵まれている。南部には志太平野が広がり、市街地を貫くように潤井川が流れている。市内には歴史的な名所や観光スポットが点在し、特に茶の生産が盛んで、全国的にも有名。また、スポーツも盛んで、サッカーやラグビーのチームが活動している。藤枝市は自然と都市が調和した魅力的な地域である。

2 視察概要

<視察目的>

藤枝市では、将来的な移動サービス MaaS を視野に入れたAIオンデマンド交通「ふじえだmobi」実証運行を実装に向けて行っている。市民や来訪者など、みんなでシェア(相乗り)することで、お金も時間も有意義に活用でき、商業者との連携によるお得なクーポンも使え、新しい移動サービスの有効性を検証し、経済効果や交通課題の解決に向けて連携している。

福生市では、交通弱者対策として、福祉バス3台を運行しているところであるが、足の不自由な方等は、タクシーを利用する必要があり、日常の移動手段としては、費用負担が課題となっている。また、全市民を対象とした移動支援を求める声も一部あることから、最新の移動サービスを導入することによる効果等について調査する。

<調査事項>

AIオンデマンド交通「ふじえだmobi」について

(1) 導入の経緯と事業概要について

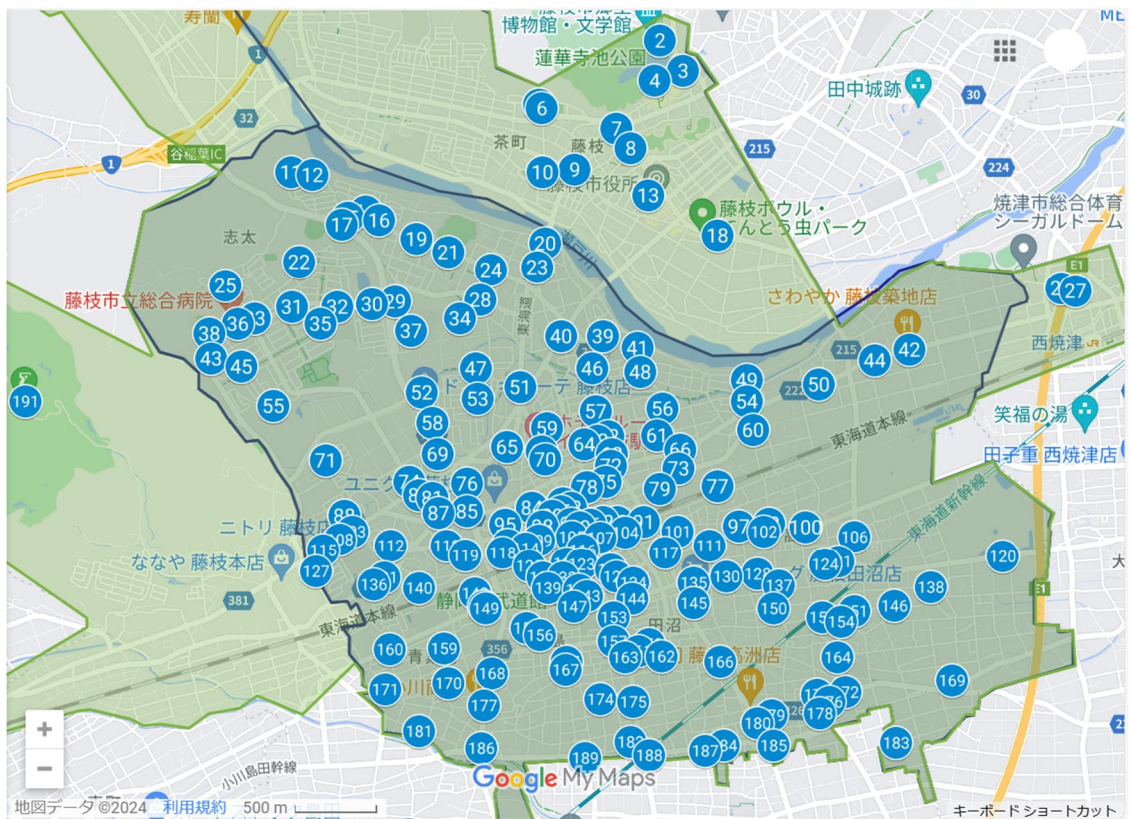
商業集積の低下と民間バス路線の縮小16路線(平成16年)⇒8路線(平成21年)、就業人口は、平成12年を境に減少傾向にあること。人口減少・超高齢社会・若年層市外流出が続いており、地域交通の充実による暮らしに寄り添うまちづくりを課題となってきた。

交通ネットワークの維持・形成のため「藤枝市地域公共交通計画 誰もが快適に

移動できるまちふじえだ」を策定し、拠点・区域をつなぐ交通ネットワークとして、民間バス路線8路線、市内自主運行バス路線5路線、自主運行乗合タクシー4区域、空港アクセスバス(自主)1路線、高速バス2路線、シェアサイクル・高齢者移動サービスを整備してきた。



平成25年度頃より、収支率を基準に効率的な運行方法を検討するなかで、バス停型乗合タクシーの運行を始めた。超高齢社会における移動ニーズへの対応とまちづくりの効果を引き出す手法として、「まちなか居住機能向上共創プロジェクト」として、AIを用いた経路構築の可能な乗合タクシー配車予約システム導入による利用者・タクシー事業者の利用環境向上により、課題解決を図ることとした。



(ふじえだmobi 乗降場所マップ 令和6年度7月1日～12月31日実施 189ヶ所)

(2) 地域公共交通会議等について

藤枝市は「藤枝市交通×まちづくり共創プラットフォーム」の立ち上げを行い、実証実験の検証と効果の確認・既存公共交通との連携・機能分担の検討、地域課題の整理及び解決手法の決定意見調整、行政、商業者、住民団体等との協議の場の設定、実用化に向けてのイニシャルコストの支援、公共交通の再編に伴うオンデマンド交通の運営支援を行っている。

(3) 令和5年度の実証実験結果について

2023年11月1日(水)～2023年12月31日(日)の毎日朝7時～夜10時に実証実験を行い合計2,389人の利用があった。事業を進める中で、転入等で駅周辺のマンションに居住し2台目の自家用車を所有しない子育て世帯などでは、通院・予防接種など雨天時の移動、路線バスの路線数が少ないことなど、地域の移動ニーズと課題が見えてきた。

■ 運行実証期間

2023年11月1日(水)～
2023年12月31日(日)

■ 運行時間

毎日朝7時～夜10時

■ 電話予約可能時間

毎日朝10時～夜19時

■ 運行会社

静鉄タクシー株式会社

■ 運行台数

ジャンボタクシー2台

■ 対象者

どなたでも

■ 乗降場所

市内約273カ所

■ 運賃

・普通旅客運賃表

種別	大人	小児
均一運賃	500円	250円

・乗り放題バス旅客運賃表

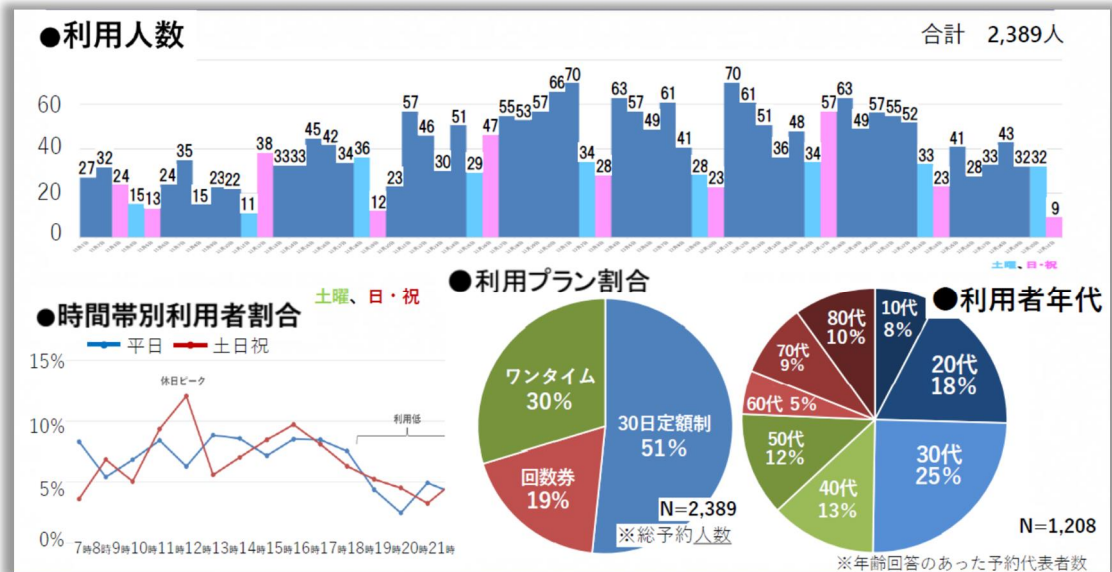
期間	大人	学生	家族会員
1ヶ月	6,000円	3,600円	500円

・回数券旅客運賃表

回数	大人	学生
3回	1,200円	1,000円
5回	2,000円	1,600円
10回	3,000円	2,400円
20回	5,000円	4,000円

・1日券旅客運賃表

期間	大人・学生
1日	1,000円



(4) 移動手段の確保が地域福祉活動に与える効果について

様々な主体とまちを共に創る視点で、移動手段の確保を考え、そこに住み、訪れ、働く人たちの暮らしに寄り添うことを通じて、市民の暮らしの質を高め、暮らしに寄り添うまちづくりを推進している。オンデマンド型移動手段の確保により、高齢者や子育て世帯の社会的孤立を防ぎ、生活の質向上、地域コミュニティへの参加促進などの効果が期待されている。

視察成果のまとめ

人口減少と高齢化社会は日本全体の課題で、その一つに外出時の交通手段があげられる。

藤枝市のAIオンデマンド交通は、高齢ドライバーの免許返納や高齢者の交通手段の確保を考えた取り組みとして検討されたが、だれでも利用できるところにメリットがあり、子育て世代のセカンドカーとしての利用や10代の利用があることもわかった。ドアTOドアで大変便利で費用負担も少ないことから、今後も利用者が増えることが予想される。

特に、高齢者、障害者、子育て世代といった移動に制約のある人々に対して、移動手段を提供することで、社会的孤立の防止や福祉サービスの充実、地域コミュニティの活性化を促進している。

事業者側にとっても運転手の人材不足に対応できる事業であることなどを勘案すると、市域に関わらず移動ニーズを確保する視点や、既存の福生市の公共交通事業者、福祉バスでは手が届かない部分をカバーできる事業であると捉えられる。

市が予算を要していないことは、メリットである一方、リスクでもあることを承知の上で、事業の検討が必要となるものの、持続可能な地域社会の実現に向け、市民の移動ニーズに応え、民間の力を活用する仕組みの構築は、今後の市政運営では欠かせないものであった。



大阪府堺市 視察 【10月8日(火)】

1 市の概要(令和6年8月現在)

(1)面積 149.83km²

(2)人口 807,868人

(3)世帯数 374,075世帯

(4)概要 堺市は大阪府の中南部に位置し、人口約80万人を擁する政令指定都市となっている。歴史的には古墳時代から栄え、特に仁徳天皇陵古墳を含む百舌鳥古墳群が有名。中世には自由都市として繁栄し、海外貿易の拠点としても重要な役割を果たした。現在は工業都市として発展し、製造業が盛ん。文化や観光資源も豊富で、伝統的な刃物産業や茶道具の生産地としても知られている。

2 視察概要

<視察目的>

堺市では、公園全域(体育館等スポーツ施設含む)を公募設置管理制度(P-PFI)と指定管理者制度を併用し、同一事業者において一括して管理運営することにより、効果効率的に公園の魅力を生み出し、利用者サービスの向上を図ることを目的とした管理運営事業を実施している。

パーク(Park-PFI)を用いて、民間事業者のアイデアと活力、民間資金を活用することの効果等を調査する。

<調査事項>

原池公園等管理運営事業について

(1) 公募設置管理制度(Park-PFI)導入の経緯について

体育館及びスケートボードパークは、指定管理者制度に基づく管理、駐車場は都市公園法による公園施設としての管理許可、無料BBQエリアを含む園地は業務委託等による直営管理を行っており、複数の事業者が公園内に存在していた。

野球場が新たにオープンしたことを契機に、民間活力を導入し公園全体の活性化と利便性の向上を図るため、P-PFI制度と指定管理者制度を併用し、公園全体を同一事業者による一体管理を目指した。尚、民間事業者へのヒアリングでは、初期投資を伴う施設整備には採算上、長期の運用期間が必要になるため、事業期間を最大20年として事業者を募集した。

都市公園の管理運営のあり方について、『堺市緑の基本計画(H30年3月改定)』に基づき、行政主導による維持管理中心の公園管理運営から転換し、多様な主体との連携・協働により利用者の視点・経営的視点に立って都市公園の管理運営を戦略的に推進することにより、より質の高い公園サービスを提供し、都市公園の活性化を図ることを目的に令和3年8月に「堺市パークマネジメント計画」が策定されている。

(2) 事業概要(目的と効果、予算等)について



【面積】16.95ha バーベキュー施設 約3,200㎡ レクリエーション広場 約2500㎡
 ブランドゴルフフィールド 約1500㎡ スケートボードパーク 約1,100㎡ ほか
 【事業期間】 令和3年4月1日から令和23年3月31日

管理運営に関する業務(利用申込の受付等、利用料金の収受、トレーニング機器の調達・管理、スポーツ用具の貸し出し、人員の配置等、施設利用案内等、苦情・要望対応、その他使用料等の徴収)

施設等の維持管理に関する業務(維持管理、備品等の貸与及び購入、施設・備品等の保守点検業務、施設維持管理業務等)

自主事業(スポーツ教室の企画及び実施、トレーニング講習の実施、スポーツ振興事業)

★民間事業者による約2億5,000万円初期投資によるバーベキュー施設整備含む



(バーベキュー施設)



(スケートボードパーク)

(3) 公募設置管理制度(Park-PFI)及び指定管理者制度の併用について

事業者の選定については、公募に2グループからの応募があり、景観への配慮や市民との協働、これまでの実績等が評価され、原池公園体育館の指定管理者であった美津濃株式会社を代表とする「ばらいけNEXT創発パートナーズ」が選定されている。

従前は、公園部分の管理は行政が行い、スポーツ施設は指定管理者が管理を行っていたが、Park-PFIの導入により一体的に民間活力を活かした管理ができるようになった。管理運営における財政的負担を減らすとともに、スケートボードパークやバーベキュー施設の修繕や改修、公園内の除草等も適宜迅速に行われており、イベント開催時の一体的運営も可能となるなど、管理の質と利便性の向上につながっている。

視察成果のまとめ

堺市では、平成29年の都市公園法の改正を契機に、民間活力を活かした公園管理運営に積極的な取り組みを始め、更に延伸された設置管理許可期間最大20年も活用し、公募設置管理制度(Park-PFI)を指定管理者制度と併用した「原池公園管理運営事業」を実施している。

民間企業のノウハウや資金力を活用し、バーベキュー施設整備を行い、公園施設を充実させ、柔軟かつ効率的な運営を実現により、収益の一部150万円(売上年額の1.5%)を市に収めている。

現在管理している公園の魅力を高めること、持続可能な運営と地域住民への質の高いサービス提供を両立させる点で、「公募設置管理制度」は有効な手法と考えられる。

福生市でも市民団体、公園ボランティア等の意見・意向の把握、民間事業者の視点での運営と活力導入、共創の視点などを取り入れた取組の検討が急がれる。